

河川輸送による輸送能力の確保

実施主体



コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)

事業内容及び特徴

オリンピック・パラリンピック大会期間の輸送手段確保が困難且つ通行規制下に於いて、輸送手段の確保並びにCO2排出削減のため河川・艇による輸送を導入する

BEFORE



【現状】

- 埼玉、岩槻、村山配送センターより都内各営業所へ製品を供給
- 配送手段はトレーラー及び大型トラックを使用

(配送距離:50-70km 1往復/便・日)

【問題点】

- 天候、気候による変動が大きな事業であり、現有輸送能力の不足状況が発生することが起こりえる
- JIT納入などの要求に対し、渋滞等環境影響から余裕のある配送計画が必要となり、結果輸送効率・就労環境の改善が困難な状況

AFTER



【計画】

- 埼玉、岩槻、村山配送センターより30km圏の朝霞棧橋へトレーラーで製品回転輸送(10台→5台へ削減)
- 朝霞棧橋→有明多目的棧橋へ艇輸送(1往復/3日)(260-300PL/隻:トレーラー10台相当)
- 有明多目的棧橋→印西在庫拠点へ移送(30km)

- リサイクルPETボトル原料(チップ)を有明多目的棧橋へ移送(2km)
- 有明多目的棧橋→朝霞棧橋へ艇輸送
- 朝霞棧橋で再生PETボトル業者へ引渡し
- 艇運航は1便(2回/週)~3便(5回/週)で検討(積載量により決定する予定)

またはパレット回収により帰荷量を確保

スケジュール

運用 :5/18~7/4
(海事課認可及びオリンピック開催の中止・延期判断により期間内で検討・実施)

効果

4-1.輸送能力の確保

- 艇1隻の運用=トレーラー10台の輸送能力に相当(T-09パレット900X1100X140 260-300PL)
- 短距離のトラック運用にすることで複数往復の輸送が可能となり、車両使用台数抑制が可能

4-2.TDM交通規制の影響回避

- 東京近郊から都内への交通規制に関係なく大量輸送が可能

4-3.車両輸送の短距離化に伴うドライバー就労時間管理・運用の改善

- 片道1時間以内の輸送となることでドライバーへの負荷軽減、運航管理の簡易化により就労規則運用が容易

4-4.計画的輸送によるプレミアム価格輸送便利用の回避

- 輸送能力の確保により相場価格輸送便利用を回避することでコストの上昇抑止が可能

4-5.船舶利用によるCO2排出の削減

- トラック便の利用台数、距離を削減し船舶輸送を利用することでCO2排出量の削減効果が期待できる